

地域における関心把握のための関係者分析法の有用性に関する一分析*

A Study on Effectiveness of Conflict Assessment Method for the Understanding of Interests in Local Area*

○竹内彩**・村井宏徳***・山中英生****

○Aya Takeuchi**・Hironori Murai***・Hideo Yamanaka****

1. はじめに

公共事業において、地域の実情と住民の意思の反映は必須となっており、そのために参加型計画づくりやプロジェクト推進への市民寄与の醸成の重要性が増している。例えば、河川整備等においても地域の歴史文化や景観を配慮することが重要視され、『河川景観ガイドライン』は、それぞれの河川や地域の自然・歴史・文化・生活にふさわしい河川景観の形成や保全河川に係る調査、計画、設計、整備、維持管理、まちづくり等流域との連携、行政と市民等とのパートナーシップ、合意形成に向けた取り組み等を実施する際に、あらゆる段階で活用することが望ましいとしている。しかし、こうした参加の場を始めるための具体的な手法は示されていない。一方、米国の紛争解決に多く用いられている関係者分析は、関係者全体の関心事・懸念事項の効率的把握・共有、重要な関係者の把握と参加の場づくりへのスムーズな移行が可能という利点があり、取り組みの第一段階に必ず実施するものと位置づけられている。

本研究では、参加型の計画作りを開始する前段階として、その地域における地域住民の関心を把握する関係者分析手法の有用性を分析することを目的としている。そのため、地域の文化や景観に配慮した堤防の整備の検討を開始する地域において、参加型築堤計画に先立って、芋づる式ヒアリングによる関係者分析手法を用い、地域住民の関心の把握手法としての有効性を分析した結果を報告する。

2. 調査地域の概要と調査方法

対象とした地域は、徳島県三好郡東みよし町の旧三加茂町である。旧三加茂町は、主に、原、古川、北村、稲持、加茂南部地区と、無人の中洲の高島の6地区に区分されている。

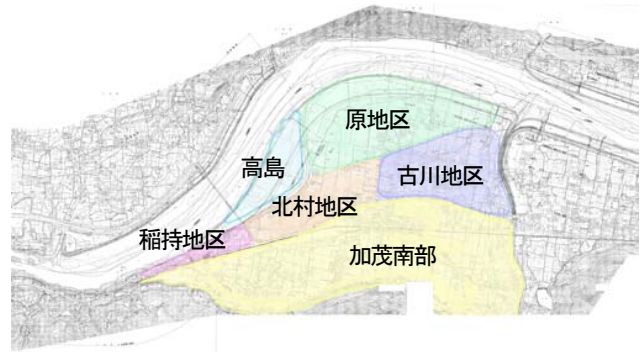


図-1 対象地域の地形概要

調査は、米国のCBによる関係者分析の手順に従って実施した¹⁾。その手順を図2に示す。実施者がつくる一次リストからヒアリングを開始しし、関係者に次の紹介を受ける芋づる式ヒアリングが特徴である。さらに、結果を「取りまとめ確認書」として対象者に確認をとることが重要とされている。本研究では、「取りまとめ確認書」とともに、効果を測るための質問を同封した。

ヒアリング調査は、大学とコンサルタントが独立した第三者として面談により行った。ヒアリング内容については個人名を、委託者を含めて秘匿することを文章として示している。

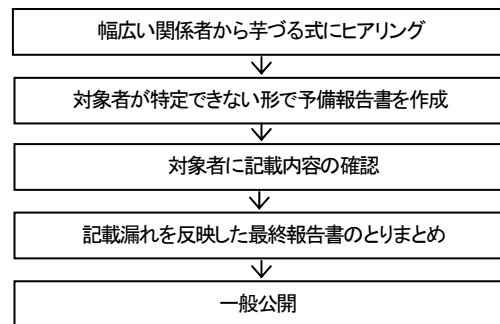


図-2 関係者分析の実施手順¹⁾

* キーワーズ：計画手法論、市民参加
** 学生員 修士課程 徳島大学大学院
*** 正員 オリエンタルコンサルタンツ
**** 正員 工博 徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部
(〒770-8506 徳島市南常三島町2-1
T:088-656-7350 F:088-656-7579
yamanaka@ce.tokushima-u.ac.jp)

(1) ヒアリング調査の概要

ヒアリングは、平成 20 年 11 月 10 日から平成 21 年 1 月 9 日までの間、同席者を含めて 26 名に対して実施した。ヒアリング項目を表 1 に示す。

表-1 ヒアリング項目

①堤防整備への要望 ▽堤防整備にあたって配慮してほしいとお考えのことはありますか？
②ワークショップの参加について ▽文化や景観に配慮した堤防整備の計画を考えるための市民参加の機会(ワークショップ)を計画しています。このような機会にあなたご自身が参加いただけそうでしょうか？ ▽あなたご自身が参加するとしたら、時間、開催場所、開催頻度などについてどのようなご希望がありますか？ ▽あなたご自身が参加しない場合、あなたの代理として意見を述べてもらえそうな人はいますか？
③ヒアリング対象者の紹介依頼 ▽他にどなたかご意見を伺ったほうがよいと思われる方をご存じですか？もしご存知でしたらお名前をお教えてください。

(2) 「取りまとめ確認書」の実施の概要

「取りまとめ確認書」は、平成 21 年 1 月 14 日から平成 21 年 1 月 20 日までの間、ヒアリング対象者全員に対して実施した。確認項目と、効果を測るための質問を表 2 に示す。

表-2 確認及び質問項目

①あなたの意見は十分に記載されていますか。 1) 十分記載されている 2) 大体は記載されている 3) 不十分である ※2)、3)は意見を記入
②あなたが想像しなかった意見や、重要と感じられないよう意見が「取りまとめ確認書」から見つかりましたか。 1) はい 2) いいえ ※1)は意見を記入
③「取りまとめ確認書」は他人の意見を認識するきっかけになったと感じましたか。 1) 大いに感じる 2) 少し感じた 3) 感じない
④ワークショップで話し合われるべき内容が十分にだされていると思いますか。 1) 十分であると思う 2) 問題ないと思う 3) 不十分であると思う ※2)、3)は意見を記入
⑤ヒアリングに来た担当者に対して、技術者として、歴史・文化・景観を配慮してもらえたと感じましたか。 1) 大いに感じる 2) 少し感じた 3) 感じない
⑥ヒアリングに来た担当者は、中立的立場で地域住民に接する人として信頼を感じましたか。 1) 大いに感じる 2) 少し感じた 3) 感じない
⑦地域文化・景観に配慮した堤防整備の計画を考えるためのワークショップを平成 21 年度に計画しています。ワークショップに期待されますか。 1) 大いに期待する 2) 少し期待する 3) 期待しない

3. 分析方法

芋づる式で実施したヒアリング調査の結果を用いて紹介者の広がり、関心事、懸念事項の範囲の変化に着目して分析した。また、「取りまとめ確認書」での質問から、各関係者が抱えている、懸念事項や関心事が、関係者全体で共有できるかどうかに着目して分析した。芋づる式紹介の結果を図 3 に示す。

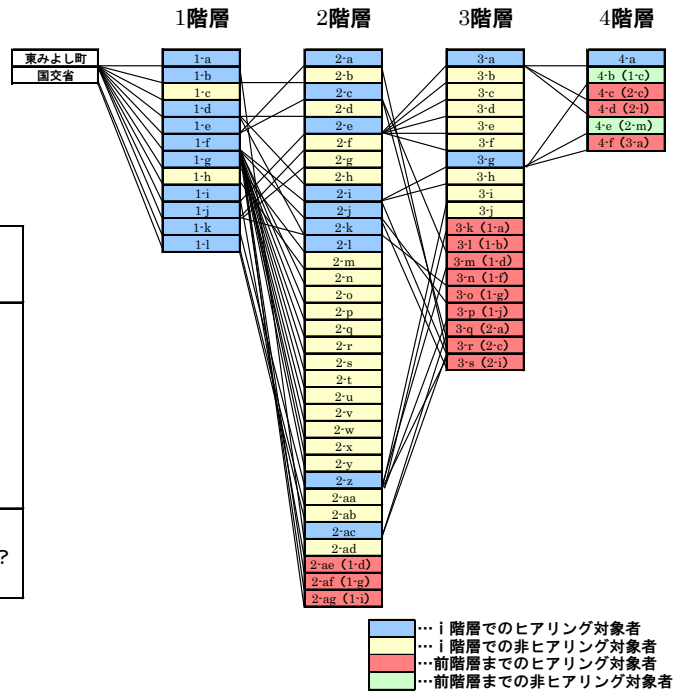


図-3 芋づる式紹介の結果

4. 分析結果

(1) 芋づる式紹介による被紹介者の拡大について
・被紹介者の延べ人数が拡大するにつれて、ヒアリング候補者が減少していく。

本研究では、各階層での紹介者全体を、被紹介者としている。その中でも、前の階層までにヒアリングが行われていない被紹介者をヒアリング候補者としている。各階層ごとの被紹介者の内訳は、図 4 に示す。

芋づる式紹介により、被紹介者の延べ人数が拡大すると、重要であると認識されている人物が重複して紹介されるようになる。更に、紹介を受けるのと同時にヒアリング調査を実施しているため、最終的には、ヒアリング候補者が減少していく結果となった。

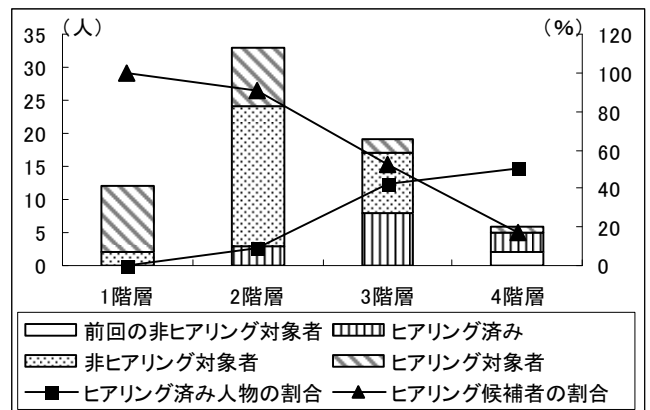


図-4 階層ごとの被紹介者の内訳

・実施者及び、町が重要視している人物以外にも、地域住民が重要視している人物が見つかる。

今回のヒアリング調査では、一階層目の対象者は、実施者である国土交通省四国地方整備局徳島河川国道事務所及び、東みよし町より紹介を受けた。芋づる式紹介で、その人々も重複して紹介を受けたが、それ以上に二階層から重複して紹介される人物が発見された。紹介回数別の人数を図5に示す。

特に、積極的にまちづくりに関する活動を行っている人物は、全体を通して6回もの紹介を受け、一階層目の人物より多くの紹介を受けた。その次に多く紹介を受けた人物が3名いたが、そのうちの2名は一階層目の人物であったが、残りの1名は、2階層目から重複して紹介されていた。この人物もまた、先の人物と共に積極的にまちづくりに関する活動を行っている人物であった。このことから、芋づる式紹介により、実施者及び、町が重要視している人物以上に、地域住民が重要視している人物が見つかるといえる。

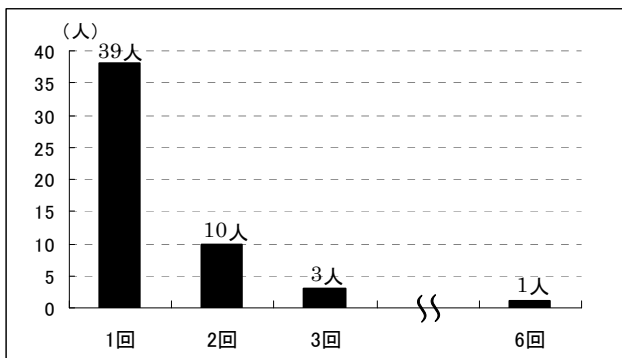


図-5 紹介回数別の人数

・関係があると判断される属性からまんべんなく関心を把握できる。

芋づる式紹介により、関係があると判断される属性をまんべんなくヒアリングできた。このことにより、様々な属性（地域、年齢等）の関心を把握できた。

(2) 芋づる式ヒアリングによる関心事や懸念事項の項目について

・芋づる式にヒアリングを進めるにつれて、新しく発見される関心事や懸念事項の項目は減少する。

階層ごとの生じた項目に対する新規に生じた項目の割合を図6に示す。

芋づる式ヒアリングを進めるにつれて、新規に生じる関心事や懸念事項の項目は、一端は増加するが、次第にその増加率は減少していき、最終的には収束することが確認できた。

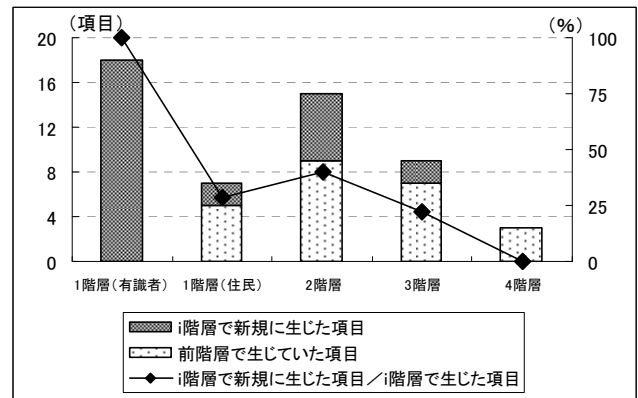


図-6 階層ごとの生じた項目に対する新規に生じた項目の割合

・イシューマップの作成により、関係者の関心事や懸念事項が可視化できる。

作成したイシューマップを図7に示す。今回、縦軸に関係する属性、横軸に関心事や懸念事項の項目を設け、各階層までの加算方式で表した。それにより、各階層までの属性、関心や懸念事項の広がりや、関係者の思いの構造を可視化することができた。

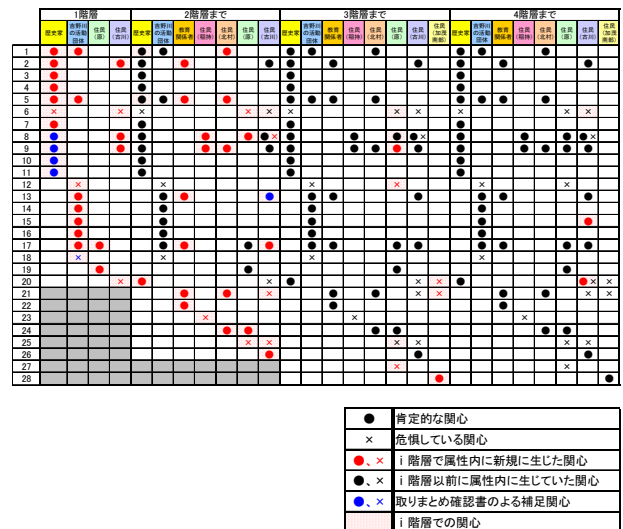


図-7 加算方式で表した関心事の項目の推移

(3) 取りまとめ確認書の効果

・取りまとめ確認書により、ヒアリング調査で十分把握できていなかった意見を補えることが可能となる。

ヒアリング調査だけでは、関係者が語る思いの内容を勘違いして受けとっていたり、関係者の関心として十分に把握できていなかったりということがあった。しかし、ヒアリング対象者に、取りまとめ確認書を送付し、得られた意見の全体の内容を示し、確認を依頼することで、ヒアリング調査で十分把握

できていなかった意見を把握し、補うことができた。

・ワークショップなどの次の話し合いの場への準備ができる。

取りまとめ確認書の質問により、ヒアリング調査を実施した関係者内で、関係者全体の関心事や懸念事項を共有できたことが確認できた。このことにより、実際に関係者が集まって話し合いを行う上で、検討すべき課題などを話し合う場の事前に関係者内で把握しておくことができ、話し合いをスムーズに行うことができると考えられる。

また、ワークショップの告知をすることができ、関係者がワークショップに大きな期待を寄せていることも事前に確認することができた。

その他に、関係者に、話し合いの場に関係する第三者の人物についての信頼についても質問から確認できている。

取りまとめ確認書の効果の分析に用いた、取りまとめ確認書の確認及び質問結果については、図8から図14に示した。

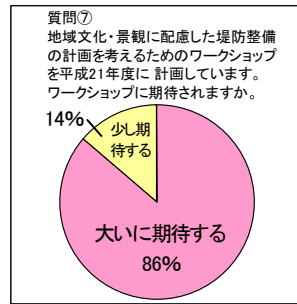


図14 取りまとめ確認書7

5. まとめ

分析結果から、以下の7項目を確認できた。

- ・被紹介者の延べ人数が拡大するにつれて、ヒアリング候補者が減少していく。
- ・実施者及び、町が重要視している人物以外にも、地域住民が重要視している人物が見つかる。
- ・関係があると判断される属性からまんべんなく関心を把握できる。
- ・芋づる式にヒアリングを進めるにつれて、新しく発見される関心事や懸念事項の項目は減少する。
- ・イシューマップの作成により、関係者の関心事や懸念事項が可視化できる。
- ・取りまとめ確認書により、ヒアリング調査で十分把握できていなかった意見を補えることが可能となる。
- ・ワークショップなどの次の話し合いの場への準備ができる。

関係者分析の特徴や目的を確認することができたことから、文化・景観に対する地域住民の関心の把握において関係者分析を用いることは有効であるといえる。

6. おわりに

本研究において、ヒアリング調査結果での、3階層から4階層にかけて、ヒアリング候補者及び、関係者の関心事や懸念事項の項目が収束する結果において、ヒアリング調査での3階層のヒアリングの人数が1階層、2階層のヒアリング人数に比べ少なかったことから、その結果の確実性を断言できるものではない。その確実性の検証のためにも、今後、3階層のヒアリング候補者にヒアリング調査を実施することが必要である。

【参考文献】

- 1) 住民参加に関わる紛争解決のあり方に関する検討会：「社会資本整備における合意形成円滑化のための手引き」 平成20年3月

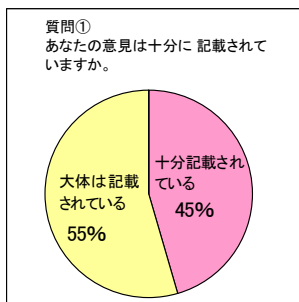


図8 取りまとめ確認書1

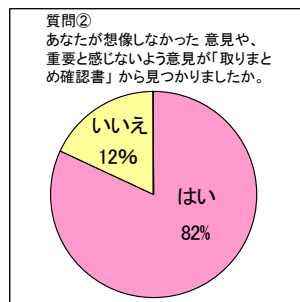


図9 取りまとめ確認書2

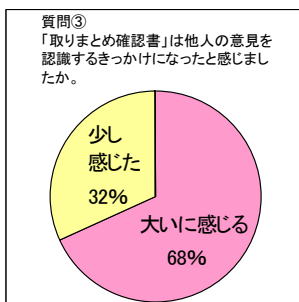


図10 取りまとめ確認書3

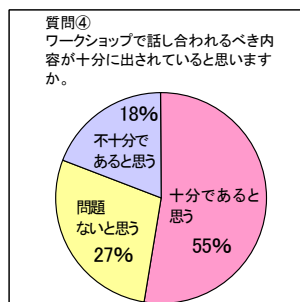


図11 取りまとめ確認書4

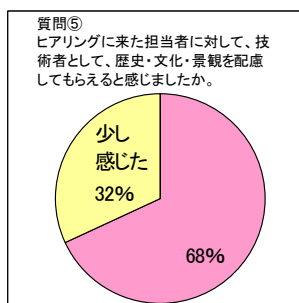


図12 取りまとめ確認書5

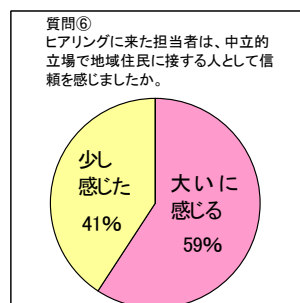


図13 取りまとめ確認書6